

大磯海水浴場 開場 130 周年



湘南も海水浴もすべては大磯から始まった！

大磯海水浴場の歴史



企画：2014 いそっこ海の教室実行委員会
制作：NPO 法人 大磯だいすき倶楽部

今年、大磯町は日本で初めて海水浴場を開設して 130 年になりました。

これを記念して今回、「第 10 回いそっこ海の教室」の記念事業として、
「大磯海水浴場の歴史」と日本で初のサーフィンの歴史をこの大磯で作った、
故坂田道さんを偲んで「大磯波乗り物語」のパネル展示を行い、冊子にしました。

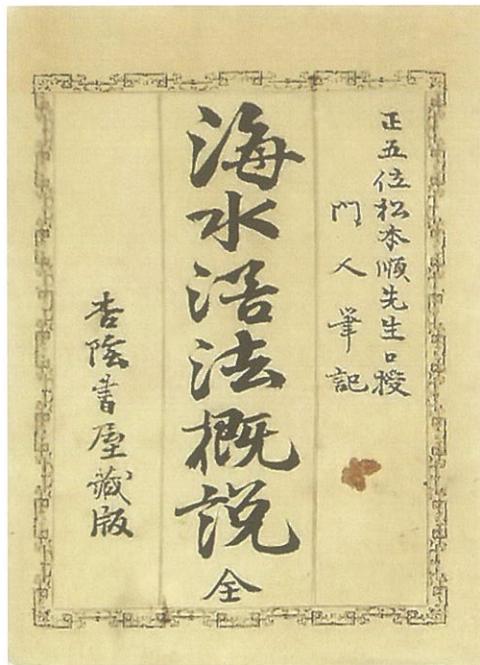
この二つの歴史をこれから子供たちに、後世まで語り継いでいただきたいと
願っています。

2014 年

NPO 法人大磯だいすき倶楽部

海水浴場を開設して130年

大磯海水浴場の歴史



お
い
そ
大
磯
か
ら
始
ま
つ
た
は
じ
かい
す
い
よ
く
海
水
浴
の
歴
史
れ
き
し



いし ちりょう はじ はってん かいすいよく
医師により治療として始まりレジャーへと発展した海水浴

きんだい かいすいよく えいこく いし
近代の海水浴は英國で医師のリチャード・ラッセルが
いりょうぎじゅつ かくりつ こうがい
医療技術として確立し、ロンドン郊外のブライトンに
かいすいよくじょう いりょうしせつ かいせつ
海水浴場と医療施設を開設したことに始まります。

にほん めいじ ねん いし まつもと じゅん はたら
日本でも明治18年、医師の・松本順の働きかけにより
おおいそ かいすいよく じょう かいせつ はや かいすいよく こうよう
大磯海水浴場は開設されました。早くから海水浴の効用に
ちゅうもく まつもと じゅん おおいそ ちょうきたいざい かいすいよく
注目をしていた松本順は、大磯に長期滞在し、海水浴を
びょうき なお てんちりょうよう
しながら病気を治す転地療養を広めました。

とうじ かいすいよく ちょうりゅう しんたい しげき あた うみべ せいりょう
当時の海水浴は、潮流で身体に刺激を与え海辺の清涼な
くうき すう
空気を吸うことでした。

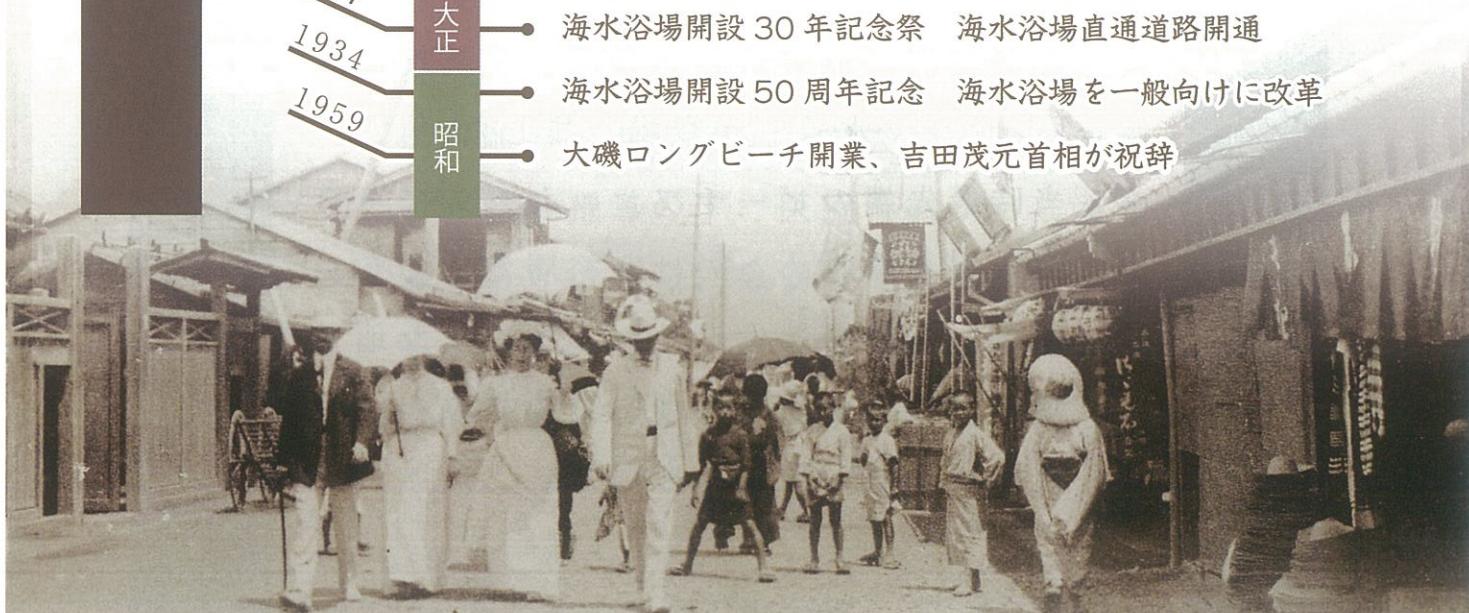
かいすい しおとうじ
海水につかっているだけで、いわば潮湯治のようでした。

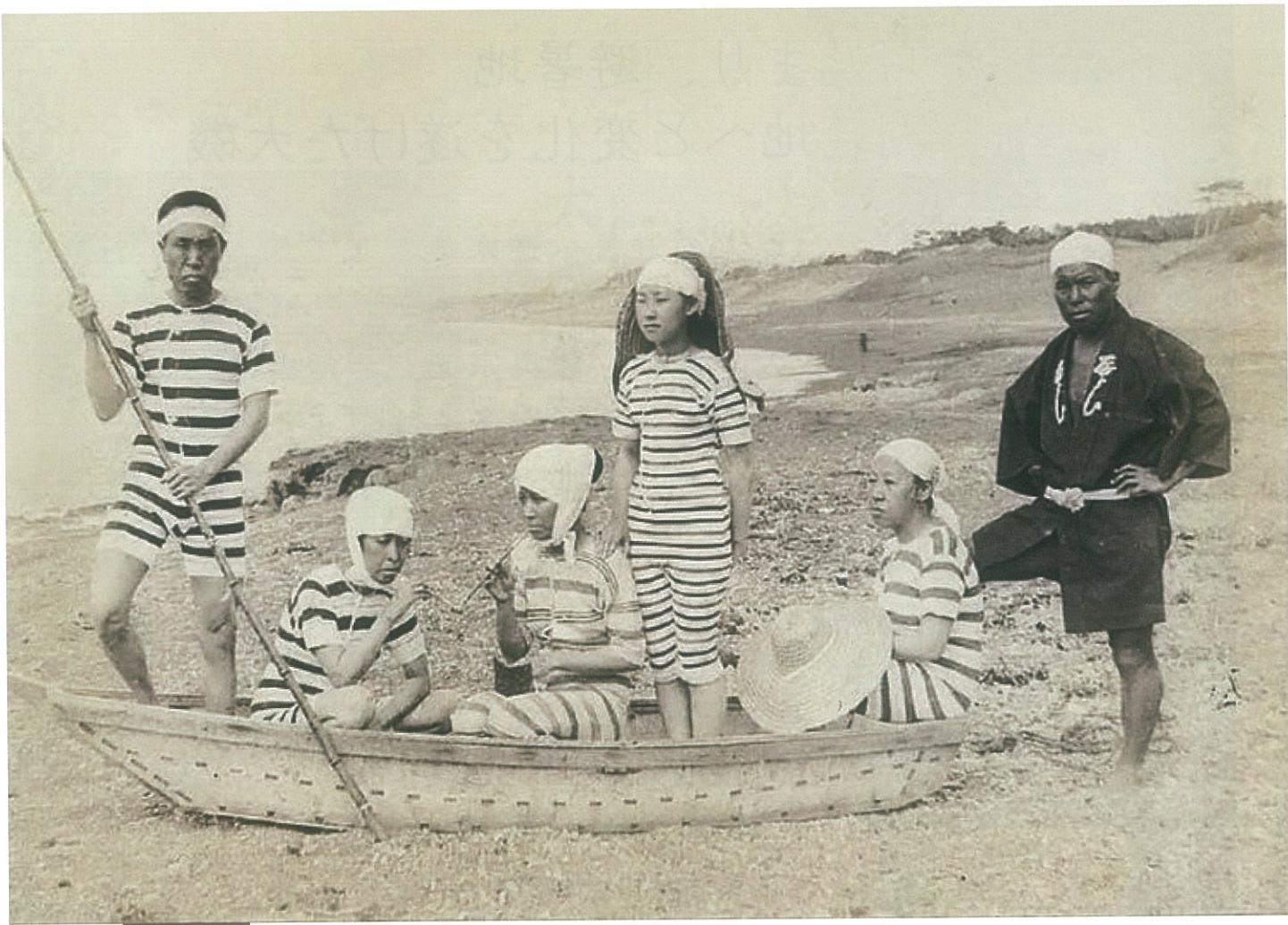
海水浴場から始まり、避暑地別荘地へと変化を遂げた大磯

明治から昭和にかけて、要人の避暑・避寒地として知られており、特に伊藤博文、吉田茂のそれは特に有名である。山縣有朋や西園寺公望、大隈重信、陸奥宗光、岩崎弥之助、安田善次郎といった政財界要人の別荘が多く建てられた。1907年（明治40年）頃の大磯には150戸以上の別荘があったといわれる。

大磯と海水浴場の歴史年表

1750	江戸	イギリスに海水浴クリニックが開設される
1862		松本潤、長崎遊學中に医療法として海水浴を知る
1872		岩倉使節団がブライトンなど海外海水浴リゾート訪れる
1885		松本順により大磯の海水浴場が開設される
1886		松本順、海水浴啓蒙書「海水浴方概説」を刊行
1887		旅館・診療所「禱龍館」開業する
1887	明治	大磯停車場開業（現大磯駅）
1890		大磯海水浴場が舞台の歌舞伎が新富座で上演される
1896		伊藤博文、別荘「滄浪閣」を建てる
1899		東海道線の避暑旅行客に鉄道往復割引切符を発売
1904		避暑旅行客向けの臨時旅客列車運転
1908		日本新聞で避暑地百選で大磯が第一位になる。
1917	大正	海水浴場開設30年記念祭 海水浴場直通道路開通
1934		海水浴場開設50周年記念 海水浴場を一般向けに改革
1959	昭和	大磯ロングビーチ開業、吉田茂元首相が祝辞





シマウマこそ明治の流行
めいじ
りゅうこう

ちゅうもく ビーチファッショնにも注目

とうしょ かいすいよく みずあ ていど ふくそう せいようねまき
当初の海水浴は水浴び程度で服装も西洋寝巻と
よば ようそう
呼ばれたワンピースのような洋装でした。

めいじ ねんだいこうはん にはん みずぎ がんそ
それが明治30年代後半には日本の水着の元祖
うみ およ こうりょ しまもよう とくちょう
として海で泳ぐことを考慮した縞模様が特徴の
みずぎ とうじょう
「シマウマ水着」が登場しました。

とうじさいせんたん み つつ
当時最先端のビーチファッショնに身を包み
かいすいよく たの ふゆうそう
海水浴を楽しめたのは富裕層だけでした。

しゃしんみぎはじ だんせい よ じもと せいそうねん
写真右端の男性はジイヤと呼ばれた地元の青壯年
かいすいよくきやく あんぜんかんり ゆうえいしどう おこ とうじ
で海水浴客の安全管理や遊泳指導を行う当時の
てき そんざい
ライフガード的な存在です。



うみ
海では泳がず、
およ
浸かる事が目的

しょ き かい すい よく けん こう ほう 初期の海水浴は健康法？

え まつもと じゅん しんこう かぶき やくしゃ
この絵は松本順が親交のあった歌舞伎役者を
おおいそ かい すいよくじょう ゆうち さい とうじ にんき うきよえし
大磯海水浴場へ誘致した際に当時人気の浮世絵師
さんだいめ うたがわ くにさだ か
三代目歌川国貞に書かせたものです。
か かいすいよくじょう ひっとう とうりゅうかん
書かれているのは海水浴場の筆頭であった稲籠館。
まつもと じゅん はつあん かいぎょう おおがた りょかん とくちょう
松本順の発案で開業した大型のこの旅館の特徴は、
まつもと じゅん しどう もと いりょうこうい
松本順の指導の下、医療行為がおこなわれていた
ところ あんか にほんりょうり せいようりょうり
処であり、さらには安価で日本料理や西洋料理が
たの はよう せいようりょうり
楽しめる保養リゾートでした。
うみ くい かいすい つ いりょうほう
海では杭につかまりながら海水に浸かる医療法
かぶき やくしゃ えが
をおこなう歌舞伎役者たちが描かれています。



おおいそ
大磯の自然と歴史の魅力

おおいそ てんぶ かいすいよくじょう
大磯は天賦の海水浴場

まつもとじゅん せいほく やま とうなん めん ち かんちょう
松本順は西北に山、東南に面した地で、干潮と
まんちょう さ おお かいすい かせん みず ま
満潮の差が大きく、海水は河川の水があまり混
なみ つよ えんぶん おお ふく
ざっておらず、波が強く、塩分を多く含み、
かいすい おん ひ か じょうけん
海水温が日によってあまり変わらないなどの条件
おおいそ かいすいよく てんぶ しつ かんが
から大磯が海水浴の天賦の資質があると考えた。

おおいそ ふじさん みうらはんとう いちほう
さらに大磯は富士山や三浦半島などが一望でき
おんだん きこう てん しゅくば つちか
温暖な気候であるという点や宿場として培った
れきし ぶんか ふところ ふか めいじ いこう
歴史文化の懐の深さもあり明治以降リゾート地
あゆ ち
として歩むことになります。



当時の大スターも大磯にぞつこん

セレブもこぞってやってきた！

海水浴場を開設した松本順は、大磯に歌舞伎役者を招待したり、大磯が登場する歌舞伎の台本を書かせたりするなど、当時のアイドルやスターを起用した大磯のPRに努めました。

その結果、大磯に明治30年代には伊藤博文、陸奥宗光などの大物政治家や三井・三菱といった財閥の関係者、尾上菊五郎や中村吉右衛門、片岡仁左衛門ら有名歌舞伎役者など、今までいうセレブが次々と別荘を構えるようになりました。

相州大磯海水湯

前前前前前前小關大
頭頭頭頭頭頭結關
津肥薩肥豐肥加豫但攝
輕後州後後州州馬州城
大山霧濱阿山道ノ有
鰐家島鰐鰐中後崎馬
溫溫溫溫溫溫溫溫溫
泉泉泉泉泉泉泉泉泉

日本温泉一覽

前前前前前前小關大
頭頭頭頭頭頭結關
秋田最仙土津相豆信野上
臺州湯足州州州州
小鹿高成川鴨湯子尾河房
鳴湯ノ湯ノ湯ノ湯ノ湯
溫溫溫溫溫溫溫溫溫
泉泉泉泉泉泉泉泉泉

秋田大瀧ノ湯
奥州飯坂ノ湯
相州木賀ノ湯
信州横川ノ湯
豆州吉奈ノ湯
越後岩室ノ湯
羽州川越ノ湯
相州大磯海水湯
和州柳本ノ湯
上州藤原ノ湯
上州伊香保ノ温泉
伊豆熱海ノ温泉
伊豆修善寺ノ湯
上州深波ノ湯

前泊野州川又ノ湯
日光伊豆山ノ湯
上州穂部ノ湯
米澤赤子湯
南丹鹿角湯
相州姥子湯
倫臺河度湯
庄内南水
津樓海泉津
夏州鹽見湯
會津熱海ノ湯
登州三段小塙湯

海水浴は湯治のように捉えられた

おおいそ おんせん 大磯に温泉があった？

とうじふゆばかいすいりょかんはこふろわしおゆ
当時冬場には海水を旅館まで運び風呂で湧かして潮湯
としてアピール、冬の避寒客も取り込んでおり、
めいじおんせんばんづけなおんせんかたならばんづけい
明治の温泉番付では名だたる温泉に肩を並べ番付入
はりを果たしていました。

ひしょちめいじねんにはんしんぶんしゃじっし
また避暑地としても明治41年に日本新聞社が実施
ひしょちひやくせんせんこくとうひょうだいにいかるいざわたいさ
した避暑地百選の全国投票で、第二位の軽井沢に大差
おおいそいちいかがやをつけて大磯が一位に輝きました。

おおいそえきまえかいだいだいいちひしょちひ
大磯駅前にある「海内第一避暑地」の碑は、
きねんたこれ記念して建てられたものです。



レジャーとしての海水浴

し だい 次第にレジャーへと変化 へん か

しょき かいすいよく かいすいじやや りょかん うんえいかんり
初期の海水浴や海水茶屋は旅館が運営管理する
こと おお りょかん しゅくはくしゃ べっそう たいざいしゃ りょう
事が多く、旅館宿泊者か別荘滞在者が利用する
げんていてき ひがえり きやく じもとみん
限定期的なもので、日帰り客や地元民はあまり
いませんでした。

し だい かいすいよく いっぽんてき たの
次第に海水浴は一般的なレジャーとして楽しまれ
るようになると日帰り客なども増え、賑わいを
ますようになります。

じもとみん あか
また地元民のビーチファッショնは赤いフンドシ
スタイルでした。



海水浴と茶屋文化が花開く
かいすいよく
ちやや
ぶんか
はなひ

うみ　いえ　げんけい　ちゃや 海の家の原型“茶屋、とは？”

しゃしん　げんざい　うみ　いえ　おおいそ　かいすい　じやや
写真は現在の「海の家」のルーツである海水茶屋。

めいじ　たいしょう　おおいそ　かいすい　じやや
明治から大正にかけて大磯には伊豆竹、黒長、

真間、長小島、平野、坂本、竹永、白長、飯春

けんほど　ちゃや　しゃしん　かいすい　じやや　さかもと
など10件程の茶屋があり写真は海水茶屋「坂本」。

きゅうけい　きがえ　しょみん　しきい　たかい　りょかん
休憩や着替えのほか、庶民には敷居の高い旅館

べっそうたいざいしゃ　しゃこうば
や別荘滞在者の社交場でもありました。

まるた　はしら　はり　は　かんそ　つく
丸太の柱と梁にヨシズが張られた簡素な作りで

そこに客から送られた暖簾がかかっています。

きやく　かんそ　まみず　はい　たる
サービスも簡素で、真水の入った樽がおかれ、

だ　むぎぢゃ
出されるものは麦茶だけでした。



女性も男性も板子で遊ぶ風景

日本発の波乗り文化

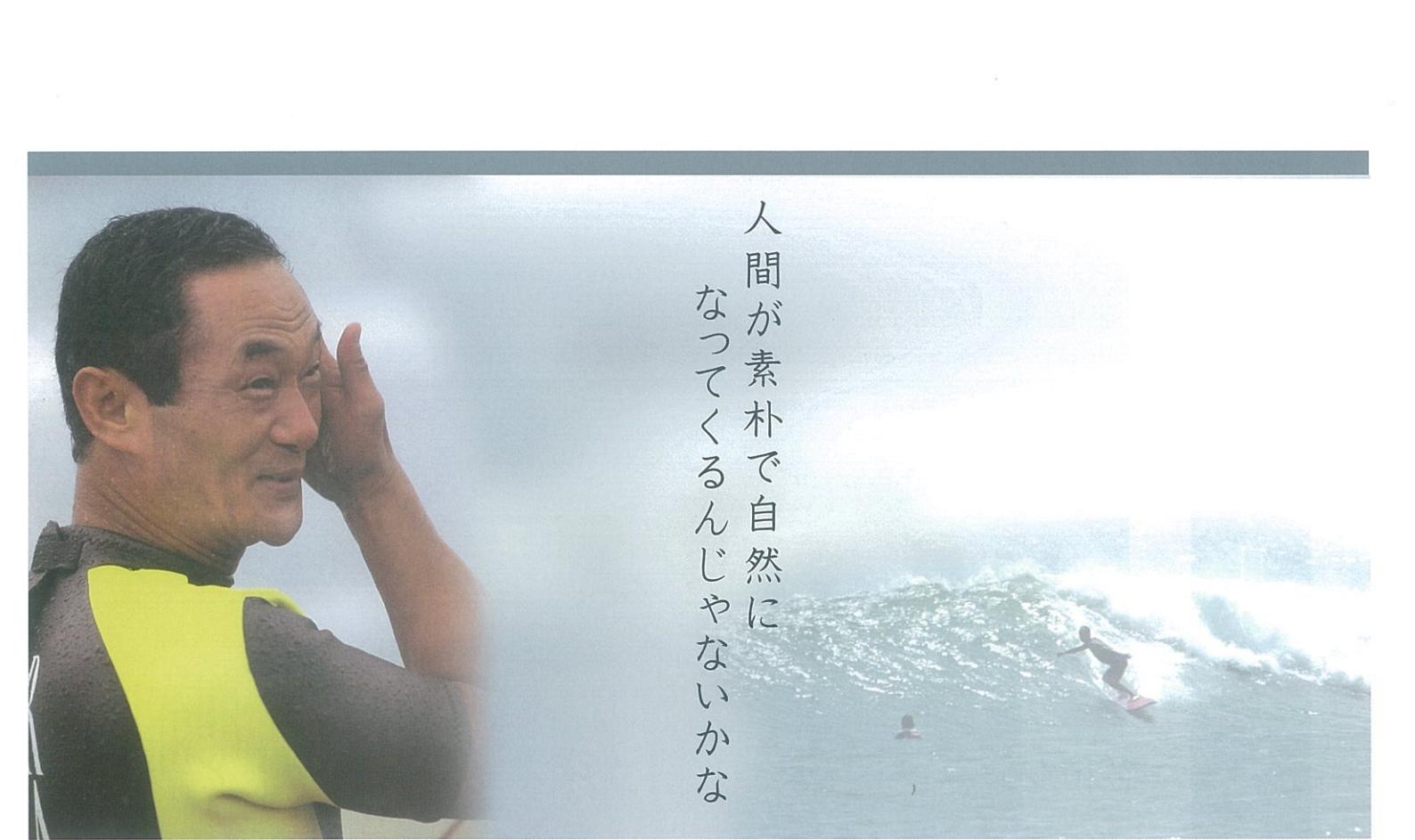
日本は古くから波乗りをしていました。

現在のボディーボードに似ており、板子(イタゴ)と呼ばれる板に腹ばいに乗る簡単なものでしたが、大正13年には「日本體育叢書 第十二編 水泳」に板子乗りについて詳しく記述されているように乗り方が体系化されていました。

さらに海水茶屋では板子の貸し出しがあり、それが一般的に普及するきっかけになりました。板子の中には、海水茶屋の馴染み客がスポンサーとして寄贈した商標入りのものもありました。

故坂田道さんを偲ぶ

大磯波乗り物語



息子が言つたんだ

"人間はまず、波に乗つたか
乗つてないかで、2通りに分かれる"とね
なるほど、と僕も思つたよ。

ボード一枚で海に出て、
崩れ落ちる波に乗る。

それは大自然との対話であり、
自然との一体感を得られる瞬間もある。

だから波に乗つた人間は、

本来人間が持つている原始的な感覚を
呼び起こされるというか

つまり人間が素朴で、

自然になつてくるんじやないかな

人間が素朴で自然に
なつてくるんじやないかな

そう語つたのは日本で初めて本格的なボードを自作し、
一昨年74歳で亡くなられるまで日本サーフィン連盟で
理事長を15年間、相談役を17年勤めた坂田道さん。
この大磯北浜海岸をサーフィンの拠点とし、

日本の近代サーフィンの父と呼ばれるレジェンドでした。

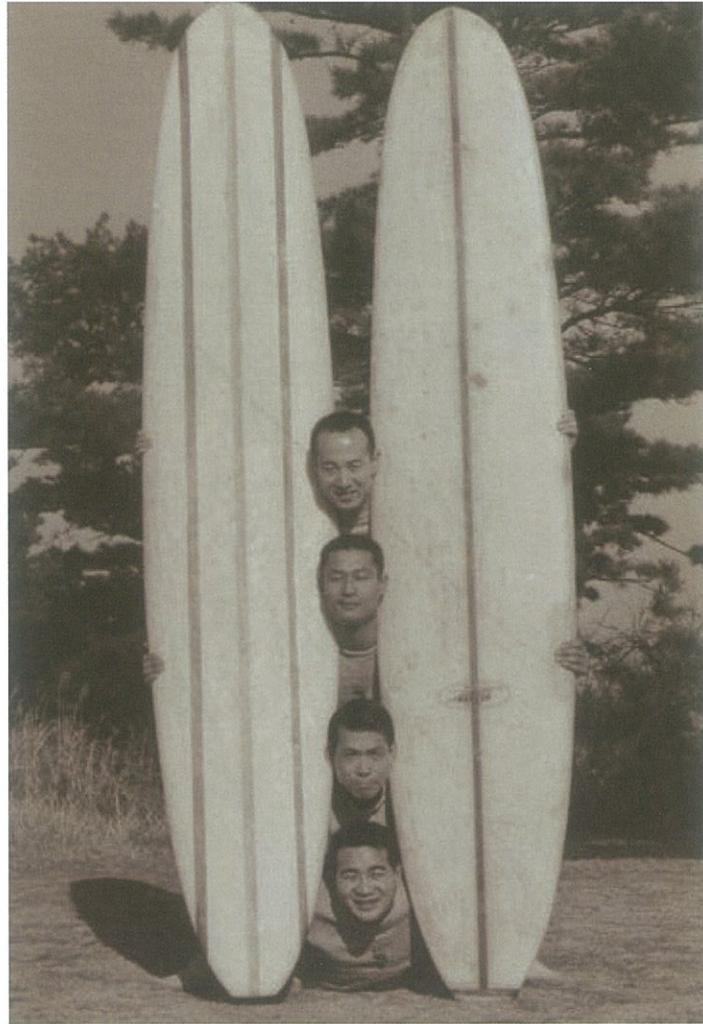
波乗り伝説は手作りで始まつた



昭和 20 年。「この波に、立って、乗れば」と
夢想する少年がいた。少年が、他と違っていたのは、
夢を夢で終わらせなかつたことだつた。

坂田さんが少年の頃、ボードはなく簡単な木の板で
腹ばいに波に乗る板子乗り。そんななかで米軍基地から
大磯へ来ていた外国人の「サーフィン」をみて衝撃を受ける。
資料を探し図書館で「サーフボード」の構造を解説した
和訳された本と出会うことから坂田さんは日本で初めて
本格的なサーフボードの自作に至る。

それは、ウレタンフォームをグラスファイバーで巻き、
フィンがついた、現代のサーフボードと変わらぬものだった
ならばと自作に挑戦するも難しい木材加工に、特殊な素材の
ポリエステル樹脂にグラスファイバー。
ようやく完成した「一号艇」。長さ 300cm、幅 55cm。
いざ大磯の海岸にもちだしてみると簡単には立てなかつた。
時に坂田さん 27 歳。昭和 38 年。東京オリンピックの前年だつた。



仲間達とサーフィン連盟を設立

とうしょ かいいん めい* いま ぜんこく にん
当初の会員 50名が今や全国 10000人

100万を越えるといわれる日本のサーファー人口。

さかた はじ ころ にん
坂田さんがサーフィンを始めた頃はわずか50人ほどだった。

かげ かいしゃづと かたわ れんめい うんえい ほんそう
その影には会社勤めの傍らサーフィン連盟の運営に奔走し

じょうねつ かたむ さかた おお どりょく
サーフィンに情熱を傾けた坂田さんの大きな努力があった。

おおいそ きよてん なかまたち
この大磯をサーフィンの拠点とし、仲間達と

おおいそ けっせい しょうわ ねん にほん
「大磯 BIG WEBERS」を結成し、昭和40年には、日本

れんめい た あ じんりょく りじちょう ねん
サーフィン連盟(NSA)の立ち上げに尽力。理事長を15年

そだんやく ねんつと せんこくかくち ひろ ながねん
相談役を17年勤め、全国各地にサーフィンを広め長年に

にほん ささ
わたり日本のアマチュアサーフィンを支えてこられました。

いま まえ でんしゃない もち こ さかた
今ではあたり前のボードの電車内の持ち込みも、坂田さん

はじ にほん れんめい はたら
を初めとする日本サーフィン連盟の働きです。

年齢なんて関係ない

年齢なりに場所を選び、波を選ぶ
筋肉は使つていれば落ちないもんだ
体力なんか、好きでやつてているうちについでくる
波に乗るのは男の誇り
少しずつでも、ずっと続けるのが良い

そう言つて最後の最後まで波に乗つた
坂田さんでした。

いつまでも楽しむことが真ん中にあった

坂田さんはサーフィン以外でも、海に関わる活動に力を入れてきました。漁業関係者やライフセーバー、ビーチクリーン、アウトリガーカヌー、サーフィンなどの団体が話し合う「大磯海の会議」を発足。代表者として、いそっこ海の教室や自然環境の保護に力を尽くされました。少年のころから大磯の海と向き合い楽しんできた坂田さん。いそっこ海の教室も当初から子供達に自然と向き合い楽しむことを教えて下さいました。何歳になっても自分に限界をつくらない。そんな格好いい背中を見せ続けてくれる坂田さん本当に有り難うございました。



いそつこ海の教室
での坂田さん

企画：第10回いそっこ海の教室 実行委員会

制作：NPO法人 大磯だいすき倶楽部

協賛：大和株式会社

中南信用金庫

東光院

中野工（第1回いそっこ海の教室実行委員長）

編集：東光院 古井昇

協力：大磯町郷土資料館

坂田喜久子様